



一般社団法人 兵庫県理学療法士会

2021
January
No.188

士会だより



**特集：阪神・淡路大震災を振り返って
～災害リハビリテーションとCOVID-19～**

Index

- ・ 巻頭言 2
- ・ 特集：阪神淡路大震災を振り返って～災害リハビリテーションとCOVID-19～ .. 3・4・5
- ・ 各部だより 6・7・8・9
- ・ INFORMATION 9
- ・ 兵庫県で活躍する理学療法士～数珠繋ぎ～ 10



令和3年 “ウィズコロナ”を 意識した士会活動を

会長 岩井 信彦(神戸学院大学)

新年、明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。という新年のあいさつが相応しい社会情勢なのか否か疑問に思いながらこの巻頭言を書いています。

なんといっても昨年はコロナに始まりコロナに終わった年でした。第一波では4月に緊急事態宣言が発出、5月には解除され一旦は収束するかに見えたが、7月に入り再び感染者が増加し第二波とされました。さらに年末には再び感染者が急増、病院も重度の感染症患者で病床が埋まり、医療が非常に逼迫した状態になりつつあります。第三波といわれるこの事態に政府はGO TO トラベルの中止の検討などようやく重い腰をあげ始めました。

昨年のはじめは、緊急事態宣言の発出を受け、繁華街や観光地の人出はぱったりと途絶えゴーストタウンの様相を呈していました。このような状況下、感染症対策に細心の注意を払いながら病院や施設、事業所で業務を続けた会員諸氏に敬意を表するとともに、会長として皆様を誇りに思います。本当にありがとうございました。研修会等の士会学術活動は中止しましたが、コロナ禍において病院や施設、事業所はどのように対処しているかといった情報の共有化は重要と判断し、「新型コロナウイルス感染症緊急アンケート」を実施、360件の回答があり結果を会員に配信しました。アンケートに協力頂きました会員の皆様ありがとうございました。7月には県士会史上初の代議員総会を実施、役員と併せ約70数名が出席、代議員からは様々な視点からの質疑があり盛んな議論が展開されました。

昨年の後半は社会情勢を見ながら8月末にWeb会議システムを利用し研修会を再開し、士会活動が徐々に戻りつつあります。しかし、12月歳の瀬を迎えショッキングなニュースが飛び込んできました。令和3年度介護報酬改定に関し訪問看護ステーションにおいては、一部の事業所でリハ専門職の配置割合が高いことが俎上に載せられ、看護職員の配置割合を6割とする方針が示されました。この改正により約8万人がサービスを受けることができなくなり、PT,OT,ST約5,000人の雇用が失われることが見込まれました。リハ専門職三協会はすぐさま署名活動を開始、わずか2週間で19万筆を集め厚生労働大臣に提出、幸い今回の改正は見送られることになるようです。署名にご協力いただいた会員の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

さて、2021年度の活動としましては、まず第61回近畿理学療法学会(2022/1/16)の成功に向けギアをチェンジしていきます。さらに学術活動の推進(学会運営審議会、県学術大会の新しいスタイルの創出)、支部活動の推進(市町対応の活動)、“ウィズコロナ”を意識した士会活動の推進(ICT,ITの活用)、管理者ネットワークの機能強化、中堅・若手会員の士会活動参加推進を重点項目として挙げています。また、例年に比べ2020年度は繰越金が膨らむことが予測され、2021年度の予算にこれを組み込むこととし、次年度は年会費を3,000円減額し7,000円とさせていただきます。

「家をきれいにしようと思えば、お客さんを呼べ」と教えられたことがあります。普段は手掛けることが難しい事でも来客を機に取り組める、という意味だと解釈しています。“コロナ”は招かざる客です。しかしこれを逆手にとって組織を変革して行くことが、2021年度の活動に求められていることかと思っています。患者・対象者に質の高い理学療法を提供できるよう、県民の皆さんに「理学療法士さん」と愛着を持って呼んでいただけるよう、会員の皆様の活動をしっかり下支えできる組織でありたいと思っています。皆様、本年も本会の活動にご協力をよろしくお願い致します。

会長 行動録

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 10/12 自民党神戸市議団との懇談会(神戸市役所) | 11/27 県介護予防・生活支援推進会議
(JEC日本研修センター神戸元町) |
| 10/13 職能部・連盟合同部会(WEB会議) | 11/30 関よしひろ政経セミナー(ANAクラウンプラザホテル神戸) |
| 10/16 県PT士会理事会(士会事務所・WEB会議) | 12/1 第61回近畿理学療法学会大会準備委員会(WEB会議) |
| 10/26 脳性まひ等肢体不自由児者研修会準備委員会(WEB会議) | 12/4 県下理学療法士養成校連絡協議会(士会事務所・WEB会議) |
| 10/28 支部新人発表会検討打ち合わせ会(WEB会議) | 12/8 令和2年度協会指定管理者(初級)研修会
(士会事務所・WEB会議) |
| 11/7 近畿ブロック士会長事務局長会議(WEB会議) | 12/11 小川かつみ議員「理学療法の未来を語る会」
(TKP赤坂駅カンファレンスセンター、WEB会議) |
| 11/10 職能部・連盟合同部会(WEB会議) | |
| 11/20 県PT士会理事会(士会事務所・WEB会議) | |

阪神・淡路大震災を振り返って

～災害リハビリテーションとCOVID-19～



兵庫県理学療法士会
災害対策部部长
介護老人保健施設ローランド
佐野 一成 氏

1995年1月17日午前5時46分、尼崎の自宅で私はこれまでに体験した事がない激しい揺れで目が覚めました。市内の義実家に向かう途中では新幹線の高架が落下して線路が丸見えの所もあり、ただ事ではないことを実感しました。義実家に寄ってから友人実家を数軒まわって家族の無事を東京にいる友人に電話しましたが、状況をなかなか理解してもらえませんでした。これは神戸をはじめとする被災地が停電や電話障害に陥り、その様子や状況が被災地外に出なかったため、朝の情報番組でも具体的な報道はありませんでした。国民が緊急事態であることを知ったのは、テレビ局のヘリコプターが被災地の映像を放映してからで、電話連絡を待っていた首相・県知事・市長らへの情報が遅れた結果、自衛隊への災害派遣要請も遅れる事になり、通信インフラの整備や緊急時は災害派遣要請を待たずに出動できるようになりました。

友人実家を巡回した後、義実家から職場へ電話をかけながらテレビを見ていた時に、ヘリコプターからの生中継で職場近くの駅前ビルが倒壊し火災が発生している映像がテレビで流れてきました。恥ずかしながらこの瞬間にようやく私も職場のある東灘区が緊急事態に陥っていることを認識し、取り急ぎオートバイで職場へ向かいました。2号線で西宮

に入ると信号も消え風景は一変しました。道路は大渋滞で毛布を被って神戸から大阪方面へ向かう被災者とすれ違いながら車の間を進みました。夙川橋西の地盤沈下により自動車は通行不可となり、通行可能な道を探して迷走していました。私は倒れた電柱や垂れ落ちた電線を避けながら進み、倒壊したビルや病院を横目にみながら、自分の職場ももしかしたら…という不安と恐怖の中をさらに進みました。普段なら40分のところを2時間近くかかって東神戸病院へ到着した時には「建っていてくれてよかった」と感動しました。

しかし、職場に到着すると病院前には中に入れないまま戸板に乗せられた砂まみれの負傷者が毛布にくるまって順番を待っていました。電気の消えた外来は担ぎ込まれた負傷者と家族で溢れ返っていましたが、フロア内は静まり返っていました。その野戦病院と化した職場で理学療法士としての仕事はなく、医事課とコメディカルスタッフは救急対応で走り回る看護師らの後方支援に徹しました。そして、私はその日から3日間は病院に泊まり込んで、



写真1(駐車係)

～精選の教員陣による人間教育～
リハビリテーション学部
理学療法学科

神戸国際大学
〒658-0032 神戸市東灘区西宮町中9丁目1番9号
TEL: 078-845-3111(代番) FAX: 078-845-3300

医療・福祉の仕事を通じて誰かの力になりたい。

その夢を叶える学校です。

神戸医療福祉専門学校中央校
【介護福祉士科】 【鍼灸科】 【理学療法士科】
〒650-3205 神戸市中央区東川崎町2丁目8番9号
URL: <http://www.knmc.ac.jp>

神戸医療福祉専門学校三田校
【理学療法士科】 【作業療法士科】 【言語聴覚士科】
【福祉保健科】 【福祉保健科】
〒650-3353 三田市福原5001-85
URL: <http://www.knmc.ac.jp>

沼津医療専門学校
【作業療法士科】 【言語聴覚士科】 【臨床工学技士科】
【理学療法士科】
〒410-0902 沼津市沼津2丁目7番2号
URL: <http://www.jnmc.ac.jp>



写真2(担架を用いて階段の移送介助)

救急車の車寄せを確保するために交通整理をしたり(写真1)、負傷者を担架で階段を使って病棟へ移送したり(写真2)、ご遺体の安置所を管理したり、トイレ用の水を川に汲みにいったり、大型集合住宅へ支援物資を配布にいったりしていました。また、空いた時間で理学療法士として訪問リハビリ患者宅へ医療物資と救援物資を届けたり、連絡がつかない患者宅へ安否確認に走り回りました。とにかく混乱の中を無我夢中で走り回ったので、すぐ後から思い起こしても当時の記憶は断片的にしか思い出せませんでした。当時、私の無念は在宅担当患者1名、外来担当患者1名、元外来患者の家族1名(絵本)と二度と会えなくなってしまったことでした。



絵本(全国の被災地で咲いています)

その後、全国からの支援が届きはじめ、被災地には大量のボランティアが訪れました。一方、兵庫県理学療法士会では作業療法士会が協働して避難所の住宅改修事業や訪問事業を展開し、これは国内初の取り組みで全国に引き継がれています。この大震災を機にDMAT(災害派遣医療チーム)や災害支援ナースの組織が生まれ、PTSDを自覚する私は10年をかけて、自分にできる災害支援を探しながら語り部となる決意をしました。

国内では2011年3月の東日本大震災をきっかけに、リハビリ関連職団体が結集し「災害リハビリテーション支援協会(JRAT:旧 大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)を発足し、のべ416名によるリハビリ支援活動を仙台で実施しました。2013年12月からは地域JRAT研修が始まり、兵庫県からは医師・PT・OT・ST・CM・Nsの6名が参加して、2013年12月に兵庫JRATとして結成しました。2016年5月の熊本地震の際には、兵庫県医師会災害医療チーム(兵庫JMAT)の一員として、兵庫JRATははじめて6日間のべ22名の被災地支援を行いました。

兵庫県理学療法士会は2016年1月に災害対策委員会を発足させました。委員会はDMAT隊員でもある理学療法士と災害医療に興味のある理学療法士で構成され、翌年から災害リハビリ研修会を定期的で開催しながら、2017年12月には県士会の災害対策本部設置について立案し、2019年4月には「県士会災害時情報収集システム」の運用を開始しました。これは県内で重大な災害が発生した時に「会員安否確認」「施設被災情報確認」の情報収集を行うシステムで幸いにもまだ一度も実行されていません。さらに県士会組織の支部化に伴い、2019年3月には「支部災害担当者連絡会議」を開催し、メーリングリストとLINEグループを作成してメルマガをはじめとする情報提供と情報共有を開始しています。2020年4月からは社会局「災害対策部」となり、研修活動を中心に災害リハビリの啓発と準備を展開し

ています。

COVID-19の大流行も一種の災害だと言われています。2020年2月に横浜港に到着した「ダイヤモンド・プリンセス号」への医療支援にはDMATが活動しました。また、12月に開設された大阪コロナ重症センターの運営に際し吉村知事は自衛隊に災害派遣要請をしました。

このCOVID-19の流行は災害リハビリの分野にも大きく影響してきています。たとえばこれまでは大規模災害が発災した場合、JRATは被災地に近い県で支援チームを結成して被災地に送り込んで支援を展開してきました。しかし、最近ではできる限り被災県内で支援チームを結成する流れになってきており、県外からの支援チームに期待することは難しくなっています。つまりCOVID-19の流行に伴い、自分たちの地域で支援チームを結成し、自分たちの地域を自分たちで支援するということが原則になりそうな予感がしています。また、避難所のあり方も変化が始まっています。2020年9月に開催された兵庫県阪神地域合同防災訓練の避難所運営では、感染防止対策が重視されました。PPE対応はもちろん

の事で、まず避難所の入口受付で体調を確認し発熱エリアと一般エリアに分けて対応します。また、一般エリアでも三密を避けるために世帯毎に1m以上の間隔を空けて個人スペースを設置するようになりました。その結果、避難所の収容人数は大きく減少しています。そのためか最近では「在宅避難」という言葉を目にする機会が増えました。これは避難勧告や避難指示が出た地域で、あえて指定避難所に避難せずに自宅にとどまることをいいます。安全が確保できる場合は不慣れな避難所よりも自宅のほうが感染・ストレス・犯罪の心配が少なく済みます。しかし、そのためにはライフラインが停止した場合の備えが必要です。食料は最低限を常備し、避難所に弁当を受け取りに行く事も可能です。とはいえ、沿岸部で立って居られない地震に見舞われた直後は、「つなみてんでんこ」を信じて早急に避難してください(図表)。私たちにできることは①備えること②逃げることだけです。テレビや携帯電話で情報収集するのは、避難してからにしましょう。率先非難することで皆さんの大切な人を護る事につながります。

避難「津波てんでんこ」

●生存率99・8%「釜石の奇跡」

想定を信じるな

最善を尽くせ

率先避難者であれ

正常コンプライアンスとの闘い

<http://matome.naver.jp/odai/2139442364992189701>
片田敏孝・群馬大教授(災害社会学)

私たちにできる事
1. 備えること
2. 逃げること

図表(避難の3原則)

人にやさしい人になる



PHYSICAL THERAPY OCCUPATIONAL THERAPY SPEECH THERAPY
●理学療法学科 ●作業療法学科 ●言語聴覚学科●

KRC 関西総合リハビリテーション専門学校

E-mail krc@junshin.or.jp 〒656-2132 兵庫県淡路市志筑新島7番4
<http://www.krc-net.jp/> TEL.0799-60-3800 FAX.0799-60-3610

誰かに「してもらう」から
自分で「する」へ



介護事業分野

- 通所介護
- 訪問看護
- 訪問介護
- 居宅介護支援

調査・研究室

- 社会や業界の情勢・動向調査
- 新規企画・開発
- 社内外へ啓発活動
- セミナー事業
- 大学共同の研究活動

その他事業

- レストラン
- 高齢者向け賃貸マンション
- 就労支援
- 児童発達支援・放課後等デイサービス
- アパレル事業

株式会社スイッチオンサービス
〒664-0006 兵庫県伊丹市西海部3丁目16-10
TEL: 072-772-3235

Switch On service



※人はつなぐ

スポーツ活動支援部

但馬支部・スポーツ活動支援部コラボ研修報告

スポーツ活動支援部は、兵庫県理学療法士会の支部化に向けて、各支部にてスポーツ現場に必要な知識と技術の講習会を開催しております。今年度は但馬支部及び北播磨・丹波支部にて頭頸部、肩、体幹、肘・手関節、股関節、膝、足関節のスポーツ理学療法について開催しています。例年は実技を中心に行っていますが、今年度はCOVID-19の影響でZOOMを用いた座学研修に変更しております。

11月28日土曜日、但馬支部との膝関節のスポーツ傷害に対する理学療法について神戸大学医学部附属病院の瀧口耕平先生に講義をしていただきました。活発な質疑応答となり時間を延長する盛況でした。



【感想文】

今回の但馬支部スポーツ活動班では、神戸大学医学部附属病院の瀧口先生より膝のスポーツ理学療法について講義して頂きました。膝関節のスポーツ障害の病態・評価だけでなく、実際の選手のプレーや受傷場面などを見せて頂きながら競技特性の重要性について教えて頂きました。病態や機能面も重要ですが、種目やポジションで必要な能力が変わってくるため、競技復帰には個々に応じた能力が必要だと改めて感じました。また本人だけでなく周りのコーチなどのかかわり方なども聞くことができ今後の為になりました。今回が2回目のZOOM勉強会で、少し雰囲気にも慣れてきて少人数ということもあり、前回より質問もしやすく活発な意見交換ができました。

梅田 剛史(朝来医療センター)

今後もスポーツ活動支援部は各支部と協力し、スポーツ現場で活躍したい理学療法士をサポートしていきます。勉強会やスポーツ現場でのサポートに興味のある方は、以下のQRコードにアクセスしスポーツ活動支援部サポートスタッフへご登録下さい。メールにてご案内いたします。

選手は、みなさんのサポートを待っています！



健康増進部

介護予防推進リーダー研修活動報告

令和2年11月29日に介護予防推進リーダー研修を実施致しました。

介護予防推進リーダー研修では、①多職種・住民と共同し効果的な予防プログラムの実践、②自主活動グループの立ち上げ支援、継続支援を地域の自助、互助力を高めながら関わる事、を目的とし講義を行いました。

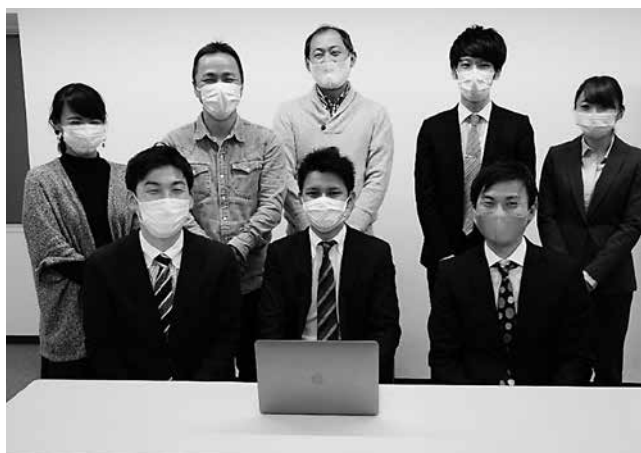
今回の研修会は全国から数多くの方が参加されました。初めてのオンライン開催でありましたが感染対策に留意して運営準備を行い、Web開催の技術提供は「株式会社エブリハ」の協力を得ながら実施しました。

1限目の講義では洲本市役所の畑山PTをお招きし行政の立場から国の指針や今後の展望、洲本市の行政主体での取り組みをお伝え頂きました。参加者からは行政セラピストの見解を聞く貴重な機会であり楽しくわかりやすい講義であったとの感想を頂いております。

2、3限目はグループワークを実施しました。グループワークでは自主活動グループでの立ち上げ支援、継続支援を行う際の住民のやる気作り、運営ルール作りを学び地域の自助、互助力を高める関り方を確認しました。Webでのグループワーク実施に工夫を要し課題もありましたが事前打ち合わせと参加者、ファシリテーターの協力もあり大きなトラブルなく実施が出来ました。

現在コロナ禍であります地域リハビリテーション活動支援事業においては更なるリハ職の介入、推進が必要であります。地域包括システム構築に向けて各セラピストがどのような役割を果たせるのか、また地域支援事業に参加する事によりセラピストの視野が広がり多様なリハビリテーションデザインに繋がる事ができるよう今後も研修会を実施したいと思えます。

松下 和樹(健康増進部)



医療で社会をつなぐ
「医療社会人」を目指す

学校法人 平成医療学園
宝塚医療大学
 TAKARAZUKA UNIVERSITY OF MEDICAL AND HEALTH CARE

0120-00-1239
 〒666-0162
 兵庫県宝塚市花屋敷緑ガ丘1

保健医療学部
 理学療法学科 ■ 柔道整復学科 ■ 鍼灸学科

宝塚医療大 検索
<http://www.tumh.ac.jp/>

JOU.th
 JUNIANGI UNIVERSITY OF HEALTH CARE

女性だから、できるケアがある。
 女子大学で、女性のための理学療法を学び、
 リーダーシップがとれる理学療法士へ。

甲南女子大学
 JUNIANGI WOMEN'S UNIVERSITY

看護リハビリテーション学部
 理学療法学科

理学療法学科 ■ 看護学科 ■ 健康増進学科 ■ 栄養学科 ■ 福祉学科 ■ 国際交流学科 ■ 国際文化学科 ■ 国際言語学科 ■ 国際経営学科 ■ 国際法学科 ■ 国際経済学科 ■ 国際政治学科 ■ 国際情報学科 ■ 国際環境学科 ■ 国際スポーツ学科 ■ 国際芸術学科 ■ 国際音楽学科 ■ 国際舞踊学科 ■ 国際演劇学科 ■ 国際映画学科 ■ 国際放送学科 ■ 国際映像学科 ■ 国際デザイン学科 ■ 国際ファッション学科 ■ 国際美容学科 ■ 国際化粧品学科 ■ 国際化粧品開発学科 ■ 国際化粧品販売学科 ■ 国際化粧品管理学科 ■ 国際化粧品流通学科 ■ 国際化粧品マーケティング学科 ■ 国際化粧品経営学科 ■ 国際化粧品開発・製造・販売・流通・管理・マーケティング

〒666-0001 兵庫県宝塚市花屋敷緑ガ丘1-2-25 <http://www.jou.ac.jp/>

保健福祉部

「地域ケア会議推進リーダー導入研修会」報告

保健福祉部では12月6日、「地域ケア会議推進リーダー導入研修会」を開催しました。

プログラムは例年同様、小森 昌彦氏(但馬長寿の郷)による「地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割」についての講義、保健福祉部部員による「地域ケア会議」についての説明、ICFを用いた事例の理解と解決課題を導くためのグループワークでしたが、今年度は初めてすべてをオンラインで行いました。

参加者からは、「地域ケア会議の重要性と理学療法士として話すべきことが何なのか、いろいろと学ぶことができた。」「専門職として普段何気なく使っている用語では十分に伝わらないことに気づいた。」「課題を考えていく上で自分の視点にないことが多く、視野が広がった。」などの感想が聞かれ、地域ケア会議に参加するためだけでなく、通常業務においても参考になったという意見をたくさん頂きました。

入念な事前準備と参加者の協力のおかげで、オンラインでもしっかり目的通りの学びを提供することができたようで安心しました。

地域包括ケアシステムの構築に向けて、ますます理学療法士が役立つための基本となる考え方が整理できるはずです。興味がある方はぜひ地域ケア会議推進リーダーを目指してみたいはいかがでしょうか。

大長 佳史(ツカザキ訪問看護ステーション網干)

こども生涯支援部

研修会報告

こども生涯支援部の今年度の公開研修会は初めてのリモート開催として準備を進めてきました。

講師には板東 あけみ氏をお迎えし、「海外支援から考える社会モデルとしてのリハビリテーション」というテーマでご講演いただきました。11月15日(日)県士会事務所にて、密集を避けるため当部部員4名で動画撮影を行いました。

ベトナムでの障害を持った子どもたちへの30年にわたる社会的支援について主にお話いただき、日本で業務を行う私達も共有すべき事があるのではないかと考えさせるものでした。今回の研修会が、視聴された方それぞれの立場から新たな視点で見つめるきっかけになれば幸いです。

公開研修会は「より多くの方に参加いただく」「兵庫県民・兵庫県士会会員の想いを反映する」の二つを中心に企画を進めていきます。今回リモート開催となり他府県在住の方から多数申込みいただきました。今後、他府県の方だけでなく、より多くの県内在住の方にも申込みいただけるような研修会となるよう、部員一同努めていきたいと思っております。

松永 梓(訪問看護ステーションしえあーど)

10学部7研究科、総合大学で豊かな人間性を育む

総合リハビリテーション学部

- 理学療法学科
 - 理学療法士国家試験受験資格
 - 健康運動実践指導者認定試験受験資格*
- 社会リハビリテーション学科
 - 社会福祉士国家試験受験資格
 - 精神保健福祉士国家試験受験資格*
- 作業療法学科
 - 作業療法士国家試験受験資格
- 総合リハビリテーション学研究科
 - (大学院) 修士課程・博士後期課程

* 指定科目の単位修得者が取得できる資格

神戸学院大学 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 有瀬キャンパス TEL(078)974-1551(代表)

リハビリ訪問看護ステーション 階 アスリートサポート部 ソーシャルメディア広報部

Steps

想いをカタチに

予防医療部 ウイメンズヘルス部 ICTサポート部

兵庫事務所 TEL 078-599-7990 FAX 078-330-3754
〒652-0033 神戸市兵庫区西上橋通 1-1-23 ヴィラ神戸 II 101

神戸西事務所 〒655-0013 神戸市垂水区福田 2-4-4 サン・リベラル 203

災害対策部

活動報告

2020年12月6日に令和2年度災害リハビリベーシック研修会を開催しました。今回の研修会はCOVID-19の感染拡大に伴い、初めてのリモート形式での開催となりました。通常ベーシック研修会では、災害医療や災害リハビリテーションの基礎知識から実際の災害支援現場の状況を講義形式で学んでいただき、グループワークにて「避難所運営ゲーム(HUG)」を体験していただいていた。避難所運営ゲームとは、避難所運営側となり避難所で起こる様々な出来事にどのように対応していくかを模擬体験するゲームです。発災時の混乱した状況を感じていただくという目的で行っています。今回はリモート開催にあたって、グループワークの実施はできませんでしたが、実際にHUGを行っているところを見ていただくことで、チャット機能を使用して活発な意見交換を行うことができました。初のリモート開催となり参加者の皆様にはご不便をおかけしましたが、このような状況でも熱い意見をいただけたことを大変嬉しく思っています。

COVID-19の感染拡大により災害支援の現場も対応を求められています。今後は災害支援現場での感染対策など最新情報を少しずつ発信していきたいと考えております。今年度中に災害リハビリアドバンス研修会の開催も予定していますので、皆様奮ってご参加ください。

篠田 歩美香(災害対策部)



INFORMATION

兵庫県理学療法士会 会員対象アンケートのお願い

拝啓 時下、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素より、士会運営におきまして、ご協力いただき誠にありがとうございます。

兵庫県理学療法士会・資料調査部では、会員様の「将来の働き方について」アンケート調査を実施することになりました。

ご自身の働き方についてどのように考えておられるか、またコロナ禍のなかで変化があったかをおきかせください。回答方法は以下の URL にアクセスするか、添付していますQRコードにアクセス頂き回答をお願い致します。回答時間の目安は10分です。

尚、今回のアンケート結果は集計作業が終了次第、「士会だよりと兵庫県理学療法士会のホームページ」に掲載して情報発信することで還元していく予定としています。

先を見通せない状況の中でアンケートのご依頼はご負担になるかもしれませんが、何卒ご協力のほどお願い致します。この状況が一日でも早く終息へ向かいますことと、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

1. アンケート URL : <https://forms.gle/QH99LxVWRQDNLQtJ8>
2. 回答期間 2020年12月1日～2021年1月31日

※QRコード▶



[問い合わせ先] 総合リハビリテーションセンター

〒651-2181 神戸市西区曙町1070 TEL 078-927-2727 資料調査部部长 相見 真吾

兵庫県で 活躍する 理学療法士

～数珠繋ぎ～

伊丹恒生脳神経外科病院
久保 宏紀 氏



略歴

2010
神戸学院大学総合リハビリテーション学部医療リハビリテーション学科理学療法学専攻 卒業
2010～現在
伊丹恒生脳神経外科病院
2016
神戸学院大学総合リハビリテーション学研究科修士課程 修了
2020
神戸学院大学総合リハビリテーション学研究科博士課程 修了

趣味

■ 晩酌、マラソン、ゴルフ、野球

モットー

追いかげずに後悔する夢はあっても、追いかけて後悔する夢はない。

伊丹恒生脳神経外科病院にて急性期、回復期の脳血管疾患患者に対する理学療法に従事しております。また日々の臨床から得られるデータを基盤に臨床研究を実施し、学会発表、論文執筆に取り組んでおります。

Evidence Based Medicineという言葉が大学教育で習いましたが、臨床を経るに従い感じる事は、私が実施する理学療法が“本当にEvidenceに基づいているのか?”、“主観や経験則に基づき過ぎていないだろうか?”ということです。世界中で数多くの研究成果が発表される中で、正しい知見を取捨選択し臨床に生かしていく事が自らの課題であると痛感しております。学会や講習会は学びの“きっかけ”に過ぎません。現状の知識や技術に満足することなく、一次情報である学術論文に触れ、解釈し、臨床に落とし込むというサイクルを日々継続していきたいと考えます。また臨床現場にはまだ明らかにされていない知見も多く存在します。私一人ではなくチームとして臨床研究を継続し、より多くの知見を学会発表や学術論文を通じて発信していきたいと思えます。そしてこのような知見が患者様に提供する理学療法に少しでも寄与できれば幸いです。

今回は、元同僚の同志であり、現在は共同研究者である甲南女子大学の金居 督之先生をご紹介させていただきます。

表紙写真

平成7年1月17日午前5時46分、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の巨大地震「阪神・淡路大震災」が発生しました。令和3年1月17日で26年を迎えます。身近に起こったことを改めて振り返り、継承をしていくとともに兵庫県や士会での災害対策の活動を再認識するきっかけにできればと思います。また現在、COVID-19再流行下での震災(災害発生)時のリスクと具体的な対策等、今後の災害と感染症対策について、災害対策部部長の佐野一成氏にお話を伺いました。

表紙写真は「水木通1丁目付近」、「JR新長田駅東口」、「阪神淡路大震災1.17のつどい」いずれも写真提供:神戸市。災害リハビリベーシック研修会の様子。

県士会だより 第188号
発行

一般社団法人兵庫県理学療法士会

発行責任者/岩井 信彦

編集者/前川 健一郎

ホームページ

<http://hyogo-pt.or.jp/>



一般社団法人 兵庫県理学療法士会

兵庫県理学療法士会事務所 所在地

〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通5丁目5-22 4階

TEL 078-367-7311